

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

社会福祉援助技術実習を経験して

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **増田 有香**

私が実習に行ったのは、在住市内の重症心身障害者施設でした。当時、私は障害者施設の生活支援員として勤務していたため、23日間の日程を4分割するという変則的な実習スケジュールを組んでいただいたため、4ヶ月もの長期にわたる実習となりました。通常23日間連続または分割しても2分割までで行うものなので、日程に関してはお勧めできませんが、私の経験がこれから実習に向かう方々への参考になれば幸いです。

コミュニケーションは積極的に

実習先の利用者の方々は重度心身障害者で、言葉によるコミュニケーションの手段がなく、勤務先との違いに最初は戸惑ったものでした。しかし、職員の方々の接し方を参考にし、表情のひとつひとつを丁寧に見ると、それぞれの利用者の方には独特な意思の伝え方があり、それを職員がいろいろな可能性を考えて支援につなげていました。私も慣れてくるにつれ、自然とコミュニケーションがとれるようになり、利用者の方々も信頼を寄せてくれるようになりました。やはり、実習では利用者の方と信頼関係を築く経験がその後の個別支援計画作成につながっていきます。コミュニケーションはその第一歩です。臆することなく利用者さんと接してほしいと思います。

また、利用者さんだけでなく、施設内には様々な役割を担う職員の方々がいっぱいいます。業務の支障にならない程度に、どんな仕事をされているのか見させていただいたり、疑問に思ったことを聞いてみることも必要でしょう。とにかく実習中は自分のアンテナを研ぎ澄ませて臨んで

いくと、日々の自分の課題が見えてくるようになります。それを実習記録に反映させていきましょう。

実習記録のコツ

これから実習へ向かう学生の皆さんの悩みのタネは実習記録だと思います。毎日自筆で8割以上を埋め、訂正印だらけになる不安があるのではないでしょうか。実習先の指導者は「東北福祉大の学生の書く量は他大学の倍以上ですね。読む方も大変です。」と話しているほどでした。しかし、読みやすく要点が伝わるようにまとめて書くことは他職種連携の場や利用者側への情報開示の時に必要なことです。23日間も続けて書けば次第に慣れてきます。

私は実習指導の担当教員だった阿部一彦先生のアイデアを使わせていただき、常にポケットに入る大きさの付箋メモを携帯し、気になったことをその都度メモしておきました。実習記録を書く前にその付箋メモを机に時系列に貼り付け、そのメモを基に今日の課題に沿ったものを抽出して考察し、疑問点は実習指導者にまとめてお聞きしてから、それらを実習記録にまとめるという方法をとりました。特に私は実習から帰ると家事・子育てに追われるため、なかなか時間が取れなかったのですが、このやり方だと30分ぐらいで書き上げることができました。頭の中で考えるより、視覚的に整理できたからだと思います。これから実習に行く学生の皆さんは自分なりの方法を事前に考えて臨んでみてください。

実習で学んだこと

利用者さんの理解と関係の形成、他業種・他職種連携とチームアプローチ、リスクマネジメント、ソーシャルワークの視点、個別支援計画の作成

など実務的なことはもちろんですが、自分では気づかない一面にも触れることができました。例えば、私が使っていた言葉が差別的表現だったこと、客観的だと思っていた考えが主観的だったことなど、実習先で注意されて初めて気づくことができました。実習先での気づきは今後の業務に生きていきますので、真摯に受け止めてほしいと思います。

また私が実習で学んだなかで一番印象に残っているのは「人は多面体である」という指導者の言葉でした。人はいろんな可能性を秘めているので、様々な方向から仮説を立てていくことが大事だというお話を何度もしていただきました。今でもこの姿勢を忘れないようにしています。

国家試験を目指す

通信教育部で学ぶ皆さんは、実習やスクーリング、レポートに追われ、さらに仕事や家事、子育てなどでなかなか国家試験の勉強時間が取れないと思います。私は実習が終わったのが10月、その後のレポートや実習指導のスクーリング、卒業試験と慌ただしく時間が過ぎてしまい、なかなか勉強ができませんでした。本格的に取り組んだのは12月下旬からです。今から全部やっても間に合わないと思い、特講の国家試験対策模試の見直しから始めました。この問題の見直しをし、並行してワークブックをチェックしていくと、多岐にわたって学習していることがわかりました。もっと早くから準備することに越したことはないのですが、特講の国家試験対策模試は大いに活用できると思います。それが終わると過去3年分の問題集をチェックし、ひたすら紙に書いて知識を詰め込みました。こんな無謀な方法でこれ幸いと国家試験に合格できました。今思うと、時間が足りないからこそ集中できたのかもしれない。国家試験を目指す皆さんは、時間を上手にを使って、最後まで諦めないでほしいと思います。目標達成に向けがんばってください！